

第12章 施しの波羅蜜 p198-5行目~p199

(本文) P198-5行目

施しを清浄にするもの (訳註43)

用語参照：赤字の単語を調べました。

施し…ほどこすこと。めぐみあたえること。

清浄(しょうじょう)…①清らかでけがれのないこと。また、そのさま。②煩惱や悪行がなく、心身の清らかなこと。(石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

訳註43より…六波羅蜜すべてについて同様であるが、直前項目が(増長させるものとしての方)とあることから、それを受け継いで「清浄にするもの」とも思われるが、それでは先の「撰煩」の逆になる。結局のところ「清浄にすること」なのかと思われるが、明瞭ではない。

帰依文

ブッダとタルマと聖なるサンガとに

菩提を得るまで帰依したてまつる

わが積みきたる布施など福德で

衆生のためにブッダになることを

野田先生の「翻訳者ノート1. 帰依文について」より

「ブッダになることを」は、直訳すると「ブッダを達成しよう」ということです。(中略)チベット仏教はきわめてはっきりと自分がブッダになることを目的にしています。ただし、今生ではどうも無理だと思うので、来生のいつかにブッダになることを目標に、今生を大切に、六波羅蜜の修行をしようと考えているのです。

(英訳) VI.Perfection.

(訳註)：布施波羅蜜の(施しの行の)完成 → 施しの行を清浄にするもの

(本文) p198-6行目

施しを清浄にするのは、『集学論』(訳註44)に「空性と悲を胎とした行により、福德は清浄になる。」と説かれています。

用語参照：

集学論…シャーンティデーヴァ著

訳註 4 4…『青冊子の注釈』に「等至・後得の二つにおいて空・悲の二つを修習するのは」といって引用し、『無尽意經』に慈の三種類を説かれたうちの無縁の慈と全く同義であるとしている。

等至（とうじ）…心身の平等に至った状態

後得（ごとく）…悟った後に得られること

無縁の慈悲…一切衆生に対して差別なく平等に垂れる仏の慈悲。（石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より）

空性（＝無我性）理論的に存在が無我性のものであるとするのも、その存在は実体的なものでなく、たえず生滅変化するものであるから、これを固定不変なものとして執着してはならないという実践面の基礎をなすもの。

「無我性」すなわち無我無執着。（水野弘元『仏教要語の基礎知識』より）

空…①一切の事物はすべて因縁より生じるものであって、その実体も自性もないとする考え。②一切の事物の固定的な実体を否定すること。

因縁…内的な因と外的な縁が合して果を生み出すこと。（2017年春ドクソン・リンボチエの法要用語集より）

自性…①存在するものそれ自体の本性。本来の独自の本質。固有の性質。

②人が本来具有している真実の本性。（石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より）

無我・空の意味並びに考察について（水野弘元『仏教要語の基礎知識』より）

…無我也空も同義語である。

理論的には無自性（NIHSVABHAVA）とされる。自己として固定した本体や性質がないことである。それは諸法には不生不滅の実体というような固定したものがなく、固定しているとは他と関係なしに孤立して独自に存在することであるが、社会・人生のすべてのものは他と関係なしに孤立して存在する絶対的なものは一つもない。すべては時間的にも空間的にも他と関連し合って存在する相対的相関的なものである。

実践的の無我や空には（A）無所得、（B）無罣礙（むけいげ）という二つの面がある。

まず（A）無所得（APRAPTI）とは執着がないということである。

われわれは我我所（自己と自己の所有物）に対して、それが固定常存のものと思ひ、または固定不変であることを希望してこれに執着するのである。このような我執や我所執のないことが無所得としての無我や空である。

さらに（B）無罣礙（ANAVARANA）とは無礙ともいい、障礙（さまたげ）や封滯（とどこおり）がなく、自由自在であることである。これは（A）の無所得無執着が進展し完成した状態を指す。執着なく自由自在に動いて、しかもそれが法にかなっていることである。

無我や空は己を空しうした状態であるから、そこに自己中心の貪欲もなく、いたずらに他をおそれたり、嫌ったり、他にへつらったり、威張ったり、他を軽蔑したり、瞋ったり、嫉んだり羨んだりすることもなく、常に他人の立場、全体の立場に立って正しくものを考えて行動するから、他に迷惑かけることもなく、すべての人間や動物に対して慈悲憐愍の心をもつことになる。それは自他の対立をもたず、大きく他を包容することであつて、無我は結局大我ということになる。

悲…①衆生に対するあわれみ、いとおしむ心。（石田瑞麿「例文仏教語大辞典」より）

ガルチェン・リンポチェの「三十七の菩薩行」御法話より

私たちは何を浄化したいのじゃろうか？それは「苦しみ」じゃ。苦しみたいか？苦しみたくな
ないじゃろう。それならば、苦しみの因を浄化せねばならん。では苦しみの因は何じゃろうか？
それは“我”という観念じゃよ。(中略)

あなたは何を得なければならんのじゃろうか？それは「利他心」じゃよ。たとえほんの一瞬で
も「利他心」が生じれば、その瞬間には、“我”という観念はない。

じゃから、あなたが「他者を助け、利益したい」と願うたびに、苦の因である“我執”をいく
らか浄化することになるのじゃ。じゃから、もし幸せを経験したいのなら、「慈愛の心の因」
を育むべきなのじゃ。(中略) 苦しみから離れたければ、“我執”から離れなければならん。

行…⑤〔梵 CARITA の訳。行為、実践の意〕悟りに到達するための修行。⑥密教で、東西南北に
配した発心・修行・菩提・涅槃のうちの修行をいう。

胎…①母胎。②胎生。母胎より生まれるもの。(石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

福德…現在または未と来に幸福をもたらす善い行いの効果。功德と同義。(→功德)

(2017年春ドラスイン・リンポチェの法要用 用語集より)

翻訳者ノート17「一切の有情に仏の因—如来蔵が有ること」より

「仏の因—如来蔵」は原文では「仏の胎(さんぎえ・き・にんぼ)」と書かれています。「胎
(にんぼ)」は「胎児」という意味もありますが、「心」とか「核心」とかいう意味もあります。
つまり、一切衆生には如来蔵があるので、努力すればかならず仏になれる、と書いてあるわけ
です。

翻訳者ノート32「願楽の信」より

私たちには因として如来蔵があるので、かならず菩提を得て仏陀になることができます(滅
諦)。菩提を得るためには六波羅蜜の道を踏み行えばいいのです。(道諦)。このことを信じるの
が「願楽する信」です。

(本文) p 198 - 7行目~9行目

それら施しが空〔を悟る智慧〕により支えられたものは、輪廻の因にならないし、
悲により支えられたものは、小乗の因にならないのです。

無住涅槃のみの因になるから、清浄です。

用語参照：

知恵 (はんにゃ) … (梵 PRAJANA の音写) 一切の事物・道理を明らかに捉える。悟りの智慧。
(石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

輪廻…生死 (しょうじ) ともいい、迷いの凡夫の状態にある間は善悪の業報に支配されて、善業をなした者はその報いとして天上や人間などの善趣 (善道) に生まれて福楽を受け、悪業を犯した者はその報いとして地獄・餓鬼・畜生などの悪趣 (悪道) に生まれて痛苦を受けるといように、右の五道または修羅 (阿修羅) を加えた六道に ^{しょうじ} 生死 輪廻するとされる。この考えは仏教以前から今日にいたるまで、インドに広く行われている一般的な思想である。

小乗… (HINA-YANA) 劣乗 (れつじょう) ともいい、小さな乗り物、劣った乗り物、の意味である。それは自分だけの完成や救済を目的とする自利の教えであるから小乗という。また声聞乗ともいわれるが、それは小乗仏教では仏の教えを聞くことによってはじめて悟りが得られるとされるからである。

無住涅槃…生死に住せず、涅槃に住せざる涅槃であって、生死を厭わず涅槃をねがわずして生死にも涅槃にも執着せず、**衆生救済の慈悲活動に挺身する状態。**
(水野弘元『仏教要語の基礎知識』より)

涅槃…すべての煩惱が消えた状態 (石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

(本文) p198-10 行目～13 行目

そのうち、空 [を悟る智慧] により支えられたものは、『**宝髻所問経**』には、施しに空性の四つの**印**により捺印することを説かれています。

すなわち、「それは**四つの印** (V172) により捺印してから、施すのです。四つは何かというと、

用語参照：

宝髻所問経 (ほうけいしょもんきょう) …大乘經典

印… [梵 MUDRA 牟陀羅の訳。標識の意] 仏像の手指の示す特定な形。その種類によって仏・菩薩の悟りや誓願の内容が示される。転じて、真言密教で僧が呪文を唱えるとき、指で結ぶ形。→印契・印相。決定すること。きまること。「いっぽういん(一法印)」の略。
(石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

(英訳)

"Supported by emptiness" means, according to the Ratnacuda-Requested Sutra, that the practice of generosity should be stamped by the four seals of emptiness.

It is said this way: One should practice generosity with four seals. What are these four?

(試訳)：

「空によって支えられたもの」の意味は、『**宝髻所問経**』によると、布施の行は4つの空の印に

よって深く刻みこませ (=捺印し) なければならないと説かれています。

「人は四つの印によって施しを行じなければならない」 こう述べられている。

これら四つの印とは何か？

(本文) p 198 - 13行目～19行目

- 1) **内**の身体を空性の印により捺印することと、
- 2) **外**の**受用**〔される資財〕を空性により捺印することと、
- 3) 心を**対境**とした空性の印により*捺印することと、
- 4) **法**〔である〕**正覚**を空性の印により捺印すること
— [すなわち] それら四つの印 (H77b) の捺印をしてから、**施す**のです。』
と説かれています。
悲により支えられたものは、有情たちの一般〔の苦〕または**差別**の苦に耐えられずに、**施す**のです。

*…訳註より、本論では「心を対境とした空性の印により」とあるが、『経大集』への引用では「有情の空性の印により」とある。

用語参照：

内 (うち) …外に現れたかたちや行動に対しては内心、外教に対しては仏教をさしている。

内 (ない) …①内心②仏教以外の教えに対して仏教の教え、または仏典、あるいは世間に対する出世間をさす。③六根をさす。④生死の迷いをさす。

六根…六識がその対象を認識するとき、はたらきの拠り所となる六つの認識器官をいう。眼・耳・鼻・舌・身・意の六つ。

六識…六根をよりどころとする六種の認識の作用。すなわち、眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識の総称。

外 (げ) …①仏教以外の教え。また仏教内で自己以外の立場。②色などの六境。眼など六根の対象となるもの。

受用 (じゅゆう) …①感覚器官が対象をうけとること。②受けて用いること。受持し活用すること。③受用身の略

対境…対象と同じ (石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

法… (DHARMA, DHAMMA) とは、仏によって説かれた教法である。それは人々をして、現実の不安や苦悩を脱して、無苦安穩の理想郷に向かわしめる教えであり、社会全体を平和で幸福な世界へ導く教えである。 (水野弘元『仏教要語の基礎知識』より)

正覚…①正しい仏の悟り。②悟りを開いた人。仏のこと。 (石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

有情…心のある生き物。衆生と同じ (2017年春ドブズィン・リンボチェの法要用 用語集より)

差別 (しゃべつ) …区別すること。また、その相違、区別。 (石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

(英訳)

One should be sealed by the pervading emptiness of the inner body,

sealed by the emptiness of the outer wealth,

sealed by the emptiness of the subjective mind,

and sealed by the emptiness of the Dharma of enlightenment.

One should practice sealed with these four.

Generosity "supported by compassion" means giving because you cannot bear the suffering of sentient beings individually or in general.

(試訳) :

- 1) 内の身体の空性が浸み込んでいることにより、深く刻みこま (=捺印され) なければならない、
- 2) 外の富 (感覚器官が受け取るもの=受用) の空性により、深く刻みこまなければならない
- 3) (of the subjective mind=その対象とした心の=) 有情の心の空性により、深く刻みこまなければならない、
- 4) 法による正覚の空性によって深く刻みこまなければならない。

これら四つの印を刻み込んで施しの行をしなければならない。悲によって支えられた施しは、それぞれのまたは有情たちの苦しみに耐られないがゆえに、与えるということである。

ガルチェン・リンポチェの「三十七の菩薩行」御法話より

まず一番さいしょに、ブッダは「利他心」を育まれたのじゃ。それは役に立ちたいをいう願であり、悟りへの心がまえじゃ。悟りに至る途中で、ブッダは三阿僧祇劫という終わりのないような期間に渡って資糧を積集されたのじゃ。その間に本当に積集されたのは、「慈悲の御心」なのじゃ。何生にも渡って、ブッダは忍辱をもって「慈悲の御心」を守られたのじゃよ。

(本文) p 198—20行目～26行目

施しの果

施しの果は、

- 1) **究竟**と、
- 2) **当座**との二つと知るべきです。

そのうち、

[第一:] 究竟は、

無上の正覚を得るのです。そのようにまた『菩薩地』に

「そのように諸菩薩は施しの完成 (布施波羅蜜) を完成してから、**無上の正等覚**に**現等覚**するでしょう。」と説かれています。

用語参照：

究竟（くきょう）…①最上であること。究極であること。また、そのもの。②到達した究極の境地。その最高の段階。③極めること。最後の境地に達すること。

当座…①居合わせている座。その場。その席上。②その場ですぐ。即座。③その場かぎり。

菩薩地（ぼさつじ）…三乗共通の十地の第九。迷いの世界に生を受けて、世の人を導き救う位。菩薩の修行の段階。

無上…①この上もないこと。最も勝れていること。

正等覚（しょうとうがく）…《あのかたらさんみやくさんぼだい。梵 ANUTTARA-SAMYAKSAMBODHI の訳》

仏の悟りのことで、この上なく正しく（正）、平等円満（等）の智慧の悟り（覚）の意。

現…①いまこの世にあること。現にあること。②現世の略。③現れること。

等覚（とうがく）…①《真理を悟った仏の悟りの内容はどの仏も等しいという意で》

仏をいう。→等正覚。

②修業が満ちて、智慧・功德が仏と等しくなった最高の位。

菩薩の最高位。またその菩薩。天台宗では十地を超えた位、法相宗では十地の最高法雲地に収める。

③真宗で、他力の信心を得た正定聚不退の弥勒と等しい位をいう。

（石田瑞鷹『例文仏教語大辞典』より）

（英訳）

VII. Result.

One should understand the results of generosity in the ultimate and conventional states.

The ultimate result is that one achieves unsurpassable enlightenment.

The Bodhisattva Bhumis says: Thus, all the bodhisattvas who fully perfect the practice of generosity will achieve the unsurpassable, perfect, complete enlightenment.

（試訳）

施しの果

施しの果は、究極的な果と一時的な果を理解しなければならない。

究極的な施しの果は無限の正覚を達成するのです。

『菩薩地』にこう説かれています。

このように、施しの行を最高完全に満たした全ての菩薩は、無上で完全円満な正覚を完成し成就するでしょう。

(本文) p 198 - 27行目 ~ p 199 - 3行目

〔第二：〕当座には、

1) 財施を与えたことにより、欲しがらなくても、自己に**資財**が円満になるでしょう。さらに、施しにより〔他者を〕**撰取**してから、最上へ結び付けることができるのです。

そのようにまた『聖撰』(訳註47)に

「菩薩の施しにより、餓鬼の**趣**が断たれる。

貧窮と同じく**煩惱**すべてが断たれる。

行ずるとき、**無辺**の**広大**な受用〔すべき資財〕が得られるであろう。

施しにより、苦しむ有情を円熟させる。」と説かれています。

『菩薩地』(訳註48)に、

「食べ物を施したことにより、力を持つことになる。

衣服を施したことにより、好い色を持つ。

(V 173) 乗り物を施したことにより、楽になる、**堅固**である*。

灯火を施したことにより、〔よく見える〕眼を持つことになる。」

と説かれています。

用語参照：

資財…①財産、資産。

撰取…①仏が衆生を納め取って救うこと。②浴する所を選び出して、納め取ること。

趣…①〔梵 YATI の訳〕赴く所。来世に赴くところ。②衆生が自己の業によって得る生存の状態、または世界。地獄・餓鬼などの悪趣、人間・天上などの善趣などがある。

煩惱…①心を煩わし、身を悩ます心のはたらき。心身を悩ます一切の精神作用の総称。

貪・瞋・痴の三つは三毒と称して、その最も根元的なものとする。その他、根本煩惱、枝末煩惱、十煩惱など種々に説かれる。②思い悩むこと。または、迷い。

無辺(むへん) …限りないこと。広々として果てしがないこと。

広大…広く大きいこと。また極めて勝れていること。(石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

堅固(けんご) …①意志が強く頑強なさま。②防備などがしっかりしていて攻撃されても容易に破られないこと。

(英訳)

In the conventional state, one will gain prosperity through the practice of giving wealth, even if one does not wish it.

Furthermore, one can gather trainees through generosity and connect them with enlightenment.

The Condensed Perfection of Wisdom Sutra says:

The generosity of bodhisattvas cuts off rebirth as a hungry ghost.

Likewise, poverty and all the afflicting emotions are cut off.

By acting well, one will achieve infinite wealth while in the Bodhi sattva's life,
and fully mature all the suffering sentient beings through the practice of generosity.

The Bodhisattva Bhumis says:

One will become strong by giving food.

One will achieve a good complexion by giving clothes.

One will become stable by giving conveyances.

One will have good eyesight by giving lamps.

(試訳)

一時的な施しの果は、望まなくても、富を与える行を通して成功を得る。

さらに、施しと正覚をつなぐことを通して、修行者を引き寄せることができる。

『聖撰』に説かれている。

「菩薩の施しは餓鬼の輪廻を断つ。

同様に、貧困と（全ての悩ます感情=）煩惱を断つ。

よく行ずることによって、人は菩薩の生涯で無限なる富を得て、

施しの行を通して、有情の苦しみを完全に円熟する。」

『菩薩地』ではこう説かれています。

「食べ物を施すことによって丈夫になるでしょう。

衣服を施すことによって、外観がよくなるでしょう。

乗り物を施すことによって、安定するでしょう。

明かりを施すことによって、よい視覚を得るでしょう。」

ガルチェン・リンポチェの「三十七の菩薩行」御法話より

「いかなる果報も望まずに」と説かれておるが、何らかの果報を求めて布施することは、過失となってしまう。(中略) じゃが、いかなる果報も望まずに与えるべきなのじゃよ。なぜなら、もしそういう期待があると、「今生での恐怖から護られるために」というだけの動機になってしまいかねないからじゃ。

しかし、目的は「菩提を得ること」であるべきなのじゃ。

六波羅蜜の目的は、一切有情にとっての利益を実現すること。じゃから、「一切有情を利益するために、私は悟りの境地を得たいのだ」と考えたいのじゃ。

(本文) p 199-4行目～13行目

2) 無畏施を施したことにより、魔と障礙により妨げなくなるのです。

そのようにまた〔ナーガルジュナの〕『宝鬘』(訳註49)に「畏れた者に無畏を施すことにより、諸々の魔すべては防げないし、力は最大になる。」と説かれています。

3) 法施を施したことにより、仏陀に速やかにお会いして伴うことと、欲することすべてを速やかに得るのです。

そのようにまた(H78a)『宝鬘』(訳註50)に

「法を聞く者に施すことを*障礙無くしたことにより、諸仏と伴うこと、欲することを速やかに得ることになる。」と説かれています。

〔以上が、〕『正法如意宝珠・解脱の宝の莊嚴』より、「施しの波羅蜜」の第十二章です。

*…訳註より、『宝鬘』には chos mnyan pa sbyin pa dag (法を聞くことと施すことを) とある。
用語参照：

ナーガルジュナ…龍樹(りゅうじゅ、梵: नागार्जुन, NĀGĀRJUNA、テルグ語: నాగార్జునుడు、チベット語: ལཱ་ཤཱ་ཀུ་སྐུ་ལྷ་མོ་、
KLU SGRUB、タイ語: นาคปรก) は、2世紀に生まれたインド仏教の僧である。龍樹とは、サンスクリットの
ナーガルジュナ[注釈 1]の漢訳名で、日本では漢訳名を用いることが多い。中観派の祖であり、日本では、
八宗の祖師と称されることがある。(WIKIPEDIAより)

無畏施…三施の一つ。衆生の畏怖心をとりのぞくこと。厄難から救っておそれのない状態におく
こと。

魔…①〔梵 MARA の音写〕人の善事を妨げる悪神。特に欲界第六天の魔王。転じて、悟りの妨げ
となる煩惱のさわりをいう。②人の心をなやますもの。悪霊。魔物。

障礙…障害。さまたげ。とくに仏の悟りをうるための仏道修行をするさわり。また、悪魔・怨霊
などによるさまたげ。

無畏…畏れがないこと。障害や苦しみを畏れないこと。

法施…①三施の一つ。人に法を説いて聞かせること。②神仏に対して経を読み、法文を唱える
こと。祈願・祈請の意味が強い。また、廟所・墓前での読経などをいう。

(石田瑞麿『例文仏教語大辞典』より)

(英訳)

By giving fearlessness, one will be unassailable by obstacles and maras.

The Precious Jewel Garland says:

By giving fearlessness to those who are in fear,
One will be unassailable by all the maras
And will become supremely powerful.

By giving Dharma teachings, one will meet the Buddha swiftly, will accompany him,
and achieve all that one desires.

The Precious Jewel Garland says:

Giving Dharma teachings to those who listen
Causes obscurations to be dispelled
And one will accompany all the Buddhas.
One will quickly achieve all that one desires.

This is the twelfth chapter,
dealing with the perfection of generosity, from
The Jewel Ornament of Liberation,
the Wish fulfilling Gem of the Noble Teachings.

(試訳)

無畏施を施すことによって、妨害と魔に不敵になるでしょう。

『宝鬘』では

恐れの中にいる者に無畏施を施すことによって、全ての魔に不敵となる。

そして、最高に強くなるでしょう。

法の教えを与えることによって、すぐにブッタに会えるでしょう。

ブッタに寄り添い、全ての願いが成就されるでしょう。

『宝鬘』では、

法の教えを聞くものに施すことは、

暗黒化した原因を払いのけ、

全ての仏陀に寄り添い、

全ての願いを素早く成就するでしょう。

これが『解脱の宝飾 (The Jewel Ornament of Liberation the Wish fulfilling Gem of the Noble Teachings.)』第12章「施しの波羅蜜」です。